



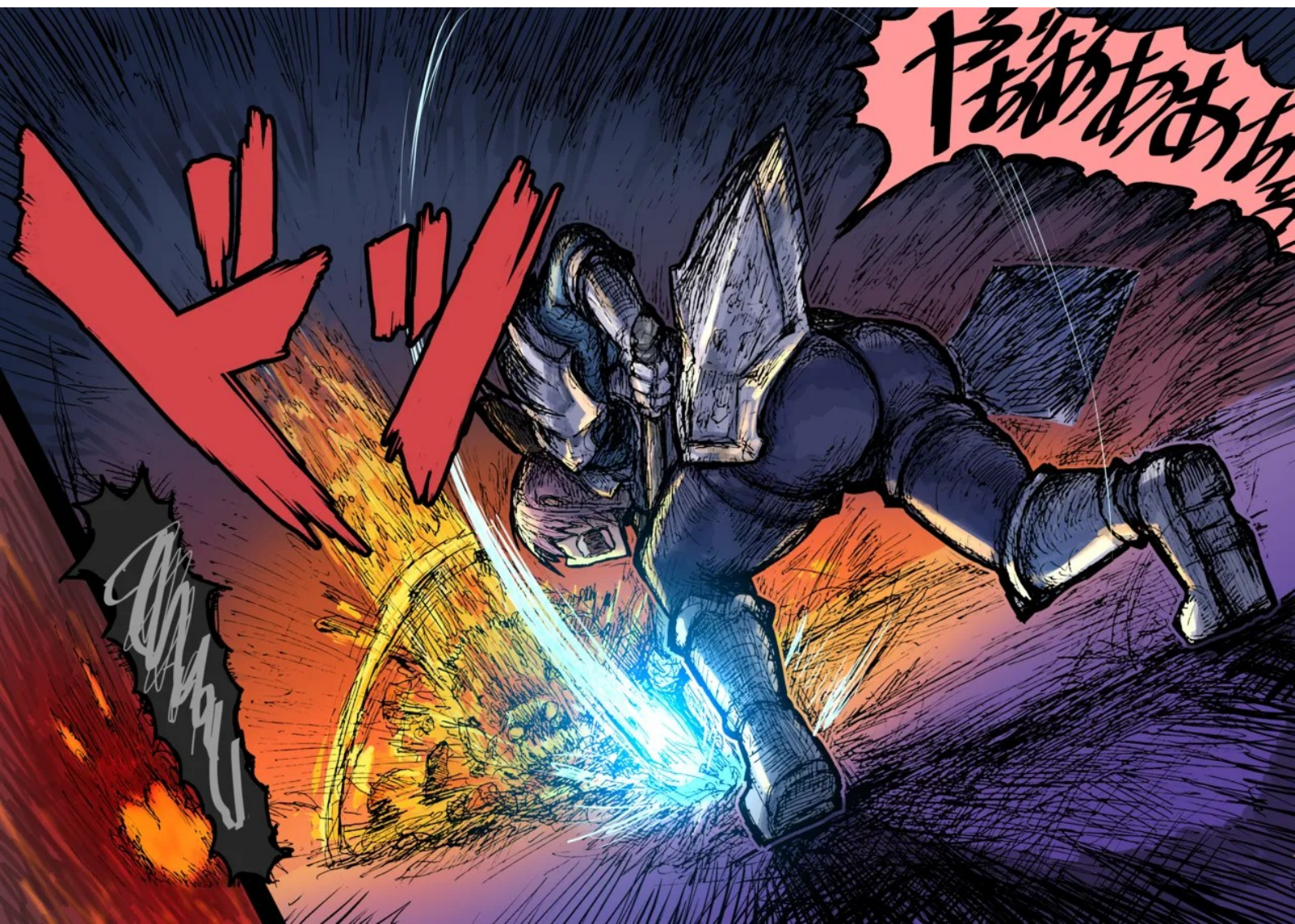
オークの結婚式

彼女達は
「星導騎士団」

星の神々に使え
人々を魔族から守るため
闘い続けている







轟轟轟

轟轟轟



しかし



騎士達は
人々の憧れの存在であった



貴方にも
星の神々の導きがあらんことを

ヘレナ
(兵種：アーマーナイト)





魔族も騎士に対抗する力を手にしていた

そして他の騎士達も

!!!

1人また1人と

オークに敗北し

犯されていた



時は経ち
魔界 オークの国



オークは騎士を
連れ去って行った



彼女達が
その後どうなったのか
人々は知る余地はなかった

始めるぞ

結婚式を



身体が
変わってしまった。

連れ去られた騎士達は
無事だった。
しかし様子がおかしい。

オークの男根を求める彼女たちの姿はまさに雌豚のようであった。そこには騎士道などありはしなかった。

あそこがうずくつ

はっ

はっ

はやくつ
せしをいれてくれつ

はっ

離らしくなったな
立派なポテ腹だ

ああっ
そ そんなこと
いわないでえっ♡

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ





美味しいわっ
下の口にも入れて
下さい♡

ああっ
すこいっばいっ♡

華やかな衣装
豪勢な食事
美しい暮らし
今の彼女たちには必要なかった。
今はただ、遅いオークに
愛される事だけを求めていた。



彼女たちは人の倫理観を捨て
オークの文化に染まっていた。
性行為を娯楽のように行い
色々な雄達と
身体を交えていた。

あなた
私のイクところ
よく見てくださいな

あぁ
見せてくれ

乱れ狂う
アロマが見たいんだ

ぐっ
ぐっぐっ

ぐっ
ぐっぐっ

ぐっ
ぐっぐっ



乱交は一夜中続けられていた
辺りには嗚咽のような
喘ぎ声が鳴り響いていた



快楽に染まるその姿は
オークの嫁に相応しかった。
そして、
儀式も最大の山場を迎えた。



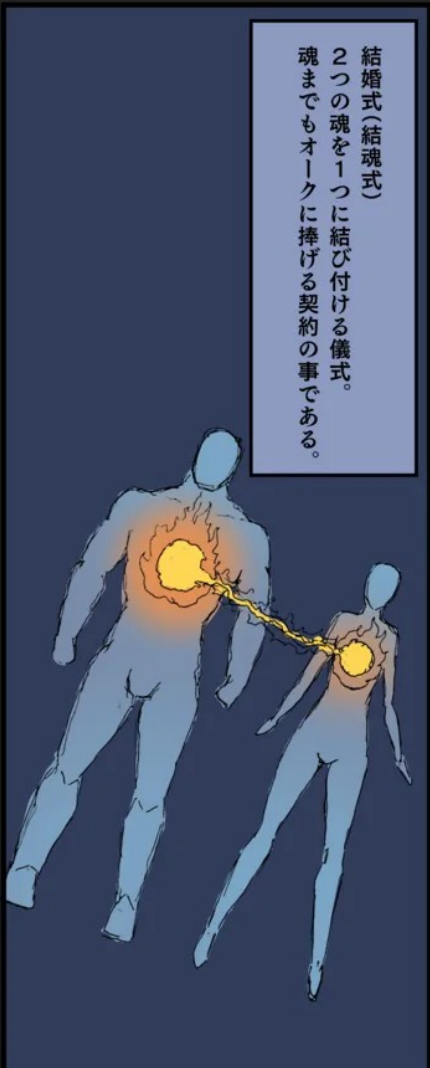
お前たち騎士には
犠牲になつてもらう

我々には…
果たせばならぬ夢があるのだ…!!



そして死後も魂は神々のいる天へ迎えられず
オークと共に魔界を彷徨うことになるであろう。

もし見つければ彼女達は
【被害者】ではなく【魔族】として
自分達の居た騎士団の手で処刑される事となる。



結婚式(結魂式)
2つの魂を1つに結び付ける儀式。
魂までもオークに捧げる契約の事である。



私
オリビアは

貴方に魂を捧げると
誓います

結婚(結魂)して下さい



私は貴方の物

夢を叶えるため
私の身体を使って下さい



私にも
その夢を見せて下さい

貴方の傍で



私たちの事を
気にかけてくれる
なんて嬉しい



オーク様が教えてくれたんですよ

本当の正義を



魂が結びついたその瞬間。
彼のこれまでの全てが
彼女へ共有されていた。



オーク様…

侵略者
【星の神々】から
世界を守りましょう

彼女は神を裏切り
オークの仲間となった。



オーク様が
私の中を満たしてる……

そして他の騎士たちも
オークに魂を捧げていった。

あなた
早く入れて
私たちも誓いませよ

他のに負けない
お前の濃い精子で
孕ませてくれ

ほら早くしないと
僕 他のオークの
赤ちゃん
産んじゃうよ？

私の全てを貴方にあげるね
だから赤ちゃん産ませて





もう彼女達は戦場に出て傷つく必要はない。
オークの子供を育てる生活を送るのであった。

これまでお互い殺しあっていた者達が
身体を重ね愛し合っていた。
彼女達は雌の幸せに包まれていた。





もうお前は
俺のものだ

悲しみや不安は
オレに任せて

お前は幸せだけを
感じればいい



ずっとそばに
いてくれる？

ああ



じゃあいいよ
結婚しよう



もう忘れさせて…

産まれた時から
貴方の雌だったと思うくらい

思い出さないように
幸せでいっぱいにして…



騎士の事

家族の事

そして彼の事



後はお前だけだ

どうした？



ここに連れてこられて
最初は辛い事ばかりだったけど
今は幸せよ



でも一人になると
思い出してしまうの

女騎士はもう
過去を捨てる
覚悟を決めていた



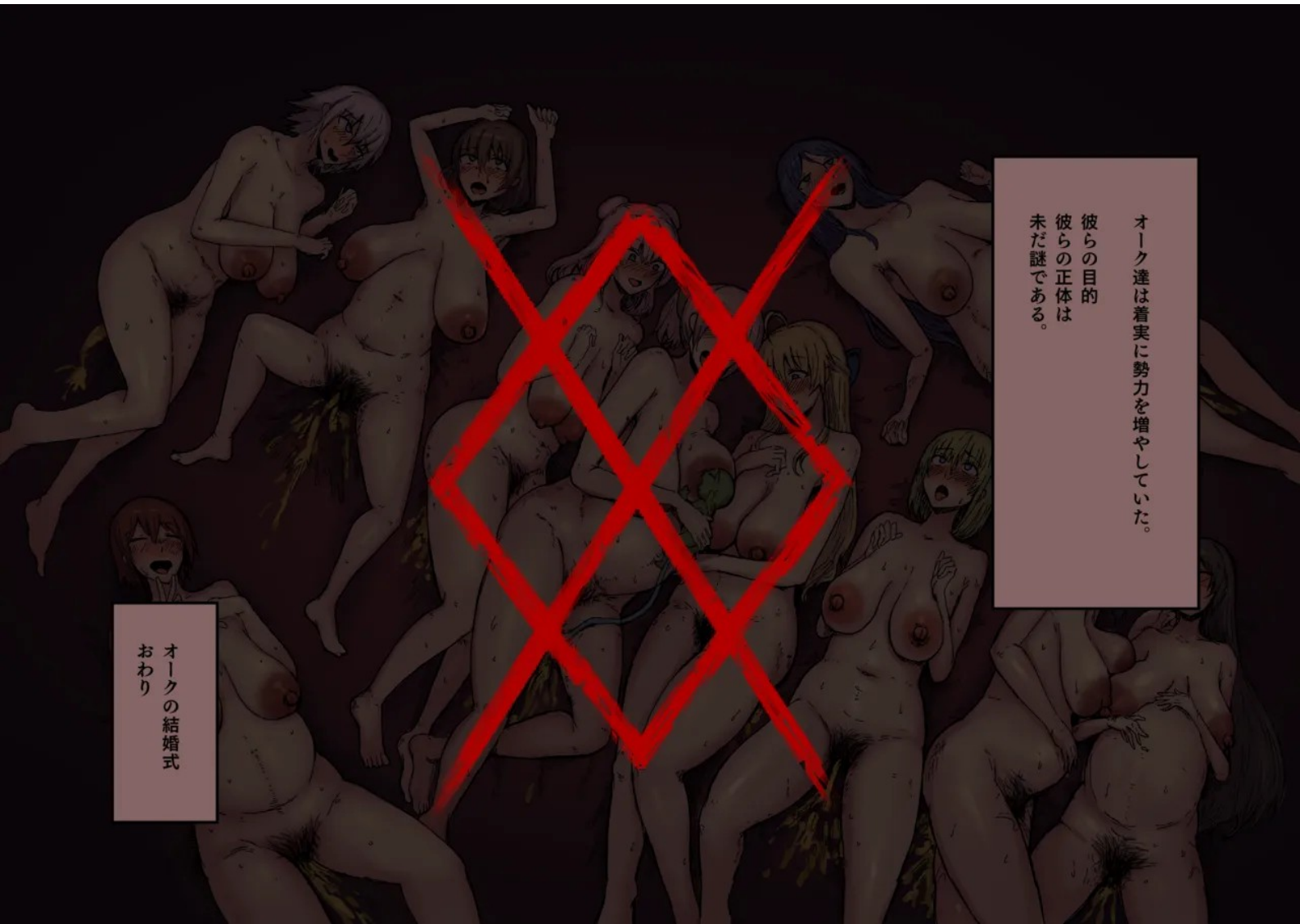
魂の共有をした時
ご主人のオークから
何を見たのであろうか？

こうして女騎士は
オークの仲間に迎え入れられた。



これから彼女たちは
オークの妻として
幸せに過ごすのだった。





オーク達は着実に勢力を増やしていた。
彼らの目的
彼らの正体は
未だ謎である。

オークの結婚式
おわり